

## 簿記講座入門編 目次

- 第1章 簿記とはどのようなものですか
- 第2章 勘定科目と貸借対照表、損益計算書について
- 第3章 仕訳をやってみよう
- 第4章 勘定科目を整理して試算表を作成しましょう
- 第5章 決算処理
- 第6章 決算整理
- 第7章 まとめ ~ 総合問題をいっしょに解きましょう

## 第1章 簿記とはどのようなものなのでしょうか？

### 1. 簿記って何の為のものなのでしょうか？

会社を経営していく上でいくら儲かったのかということや会社の財産の状況はどうなっているのかということを理解することはとても大切です。

会社では、商品を仕入れたり、販売したり、給与を払ったり、車を購入したりと様々な活動を行っています。その活動一つ一つを記録し、会社の儲けや財産の状態をあきらかにしていくことが簿記の目的です。この目的を達成する為には日々の活動を記録し、集計していく必要がありますがその方法にはルールがあります。このルールを簿記といいます。

### 2. 決算書

決算書は会社のもうけや財産の状況をあきらかにする報告書です。会社で起こっている様々な活動をまとめて最終的な報告書として決算書を作成します。決算書をつくることで、会社が儲かっているのか、損しているのかが分かり、建物などの資産や借金の残高など財産の状況も分かります。それによって儲ければもうけに応じて税金の計算や株主への配当金の計算が出来るようになります。

決算書には貸借対照表と損益計算書という2種類があります。貸借対照表はある時点の会社の財産の状態がどうなっているのかをあきらかにし、損益計算書はある期間での会社のもうけがどうなっているのかをあきらかにします。決算書を作る対象期間は通常1年間ですがこの期間を会計期間といいます。例えば4月～3月の1年間を会計期間とすると会計期間のスタートである4月1日を期首、ゴールである3月31日を期末といいます。会計期間は企業の任意で決めることができますが、3月末を決算日とする企業が多いです。

### 3 . 複式簿記

簿記の目的は会社の財産や経営状態をあきらかにすることですが、家計簿なども簿記の一種で単式簿記といえます。一般的に言われている簿記とは複式簿記という方法です。

なぜ、複式簿記というのかというところあるひとつの取引を2つの側面から捉えていくからなのです。取引とは会社の中で起きている様々なお金やものの動き全てをいいます。例えば、500円のビールを現金で販売したという取引があるとします。この取引は500円という現金が増えたという面とビールを販売して売上が増えたという面から見る事ができます。次に、30万円の借金をしたという取引があるとします。この取引は30万の現金が増えたという面と借金30万円が増えたという面からみることが出来ます。このように取引を2つの側面からみて記録していくのが複式簿記の特徴です。

### 4 . 資産、負債、資本、費用、収益というグループを理解しましょう

決算書には貸借対照表と損益計算書という計算書があります。貸借対照表には資産、負債、資本のグループがあります。損益計算書には収益と費用のグループがあります。

又、資産、負債、資本、費用、収益のグループにはそれぞれの勘定科目があります。例えば資産グループの中には現金や建物などの細目があり、これを勘定科目といえます。勘定科目とは取引を記録する際に誰もが理解できるようにする為にあります。例えばある建物をAさんは「ビル」と書いたり、Bさんが「鉄筋コンクリートビル」と書いたりするとわからなくなるので、この場合の勘定科目は建物という勘定科目を使用しましょうとなっています。大切なことは様々な勘定科目が資産、負債、資本、費用、収益のどのグループに属するのかをよく理解することです。



## 5 . 仕訳 ~ ルールを覚えるととても簡単です

仕訳は簿記を学習していく上で基本となるものです。仕訳とは1つの取引を2つの側面から見て、勘定科目と金額を利用して記録することをいいます。取引の仕訳は伝票に記録しますが、次のような形をしています。

借 方	貸 方

左右に分かれて、それぞれ借方、貸方となっていますね。この借方、貸方という言葉には特に意味はありません。

1つの取引を2つの側面から見て記録するのが仕訳ですが、2つの側面を左と右に分けます。この時の左側を借方、右側を貸方といいます。借方や貸方という言葉に意味はないので、左側が借方、右側が貸方と覚えてください。

簿記が理解できるか理解できないかの一番の分岐点が仕訳のルールが理解できて仕訳をすることができるかどうかですので、ここでの仕訳のイメージをしっかり持っておくようにしましょう。

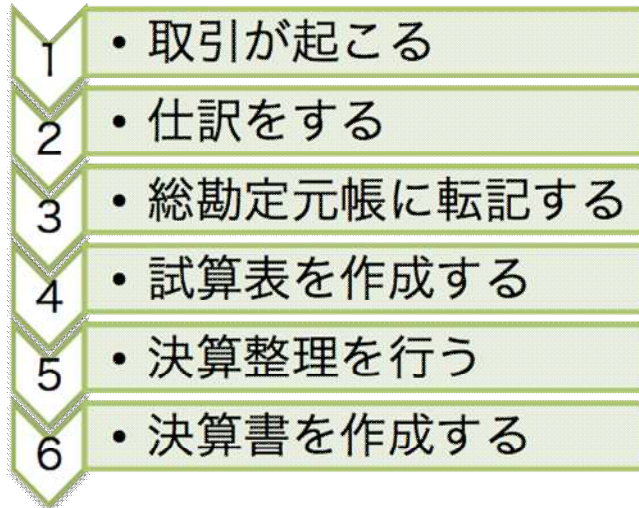
## 6 . 簿記一巡の流れ

会社では簿記はどのように行われているのでしょうか？

会社では主に経理部で簿記を行っています。日々の取引を仕訳し、伝票に記帳します。次に仕訳の記録を各勘定科目ごとに整理していきます。この時に使う帳簿を総勘定元帳といいます。ここまでが日々の業務となります。

会計期間が終わると決算を行います。決算とは会社が1年間に起こった取引をまとめて決算書を作成することです。まず、1年間の売上はいくらか、1年間の消耗品費はいくらかといった勘定科目別の残高を集計していきます。その結果、全ての勘定科目をまとめた表を作成します。この表を試算表と言います。試算表とは試しに算出した表という意味です。試算表が出来ると各項目において修正が必要な部分を修正していきます。この手続きを決算整理といいます。決算整理が終了すると貸借対照表と損益計算書を作成し、完了となります。決算は1年間の取引全てを整理するので決算の時期の経理部はとても忙しくなります。

～ 簿記一巡の流れ ～



現在ではパソコンソフトを利用して経理を行うので仕訳を入力すると総勘定元帳や試算表は自動的に作成されます。しかし、試算表に誤りがある場合に簿記の知識がないとその原因が分からないのでどんなにパソコンソフトが進化しても簿記の技術は必要となってきます。

## 第2章 勘定科目と貸借対照表、損益計算書について

### 1. 資産、負債、資本、収益、費用とは何か？各グループの説明と具体例

#### ■ 資産

資産とは・・・

現金や、預金、土地など一般的に財産と呼ばれるものを簿記上資産といます。ほかに、他人にお金を貸した時に生じる貸付金などの権利も含まれます。一般的に「人材こそ、わが社の資産です」などということがありますが、簿記上は人材は資産ではありません。それは、人材の価値は金額があいまいですし、換金できるものではないからです。簿記上の資産は現金に換金できるものだという理解をしておくとかかりやすいと思います。

代表的な勘定科目

現金 ... 紙幣、硬貨など

普通預金 ... 銀行や郵便局の預金

売掛金 ... 商品を販売してその代金を後日受け取るという取引を行い、まだ代金をもらっていない時に使用する科目です。商品をいわゆるツケで販売した時の未回収の金額のことです。通常、月末締め、月末払いという商取引をしているところが多いのですが例えば9月に販売した商品代金を10月末日に支払いますという内容です。こういった販売方法を掛け売りといいます。

貸付金 ... 他人にお金を貸したときの貸金

繰越商品 ... 決算日までに仕入れた商品のうち販売できずに売れ残った商品

未収金 ... 商品以外のもの、例えば建物や土地などを売却し、その代金を受け取っていない時の未回収の金額

【ワンポイント】 売掛金も未収金も物を掛けて販売した時の未回収の金額ですが商品を販売した時と商品以外を販売した時で分けることにより、会社本来の営業活動の債権とそれ以外を区分することが出来ます。

建 物 ... ビル、店舗や倉庫など

土 地 ... 会社の営業活動で購入したものだけでなく、投資用の土地も含まれます。

備 品 ... 事務用机、パソコン、コピー機、棚など

車両運搬具 ... 車やバイクなど

## ■ 負 債

負債とは・・・

借金など会社が将来支払わなくてはならない義務をいいます。

代表的な勘定科目

借入金 ... お金を借りた時の借金をいいます

買掛金 ... 商品をつけて仕入れた時のまだ代金を支払っていない金額をいいます。  
なお、商品をつけて購入することを掛仕入といいます。

未払金 ... 商品以外のものをつけて購入し、その代金を支払っていない金額をいいます。

預り金 ... 会社が一時的に現金などを預った場合の預り額を言います。例えば会社が給料を支払う時に所得税などを差し引きますが、会社はこの所得税を後日税務署に納める義務があります。このような時に使用します。

セットで理解すると分かりやすい勘定科目

売掛金と買掛金、未収金と未払金、貸付金と借入金はセットで理解するようにしましょう。

## ■ 資 本

資本とは…

会社をスタートした時に出資してもらう資本金と今までの利益の累積額の合計です。

代表的な勘定科目

資本金 … 会社をスタートするに当たって最初に株主に出してもらう出資金です。

【ワンポイント】 会社をスタートするにあたり、いろいろな費用や敷金などが必要になりますが、そのお金を株主に出資してもらうと資本金となり、銀行などから借り入れると借入金となります。会社にとって借入金を借ると元金と利息の支払義務が当然生じますが、資本金は返済義務がありません。そのかわりに会社で利益を出すと配当金という形で株主に分配します。

繰越利益剰余金…いままで会社でもうけてきた利益の累積額です。

## ■ 収 益

収益とは… 利益のもとになる収入をいいます。

代表的な勘定科目

売 上 … 商品を販売した時の販売額

受取利息 … 銀行の普通預金で計上される利息です。

受取手数料 … 自分の会社が他社の取引を仲介することで得られる手数料です。

## ■ 費用

費用とは…

商品の仕入代金や給料など収益を生み出すために必要な出費です。

ただし、支出したものが費用ではありません。例えば借入金の返済や土地の購入は支出ですが費用ではありません。費用とはあくまでも収益を生み出すために直接かかった支出になります。

代表的な勘定科目

仕 入 … 商品を仕入れた時の仕入代金

給 料 … 従業員へ支払う給与

通 信 費 … 電話代、携帯電話代、切手代、ハガキ代、インターネットの接続料など

旅費交通費 … タクシー代、電車代、バス代、飛行機代などの交通費

水道光熱費 … 水道料金、電気代、ガス代

広告宣伝費 … 新聞の折り込みチラシや TV 広告料などの宣伝費

保 険 料 … 火災保険料や自動車保険や損害保険などの保険料

支払利息 … 借入金を借りた時に発生する利息

支払家賃 … 事務所や店舗の家賃

接待交際費 … 取引をスムーズに行うために取引先を接待した時の食事代やお土産代

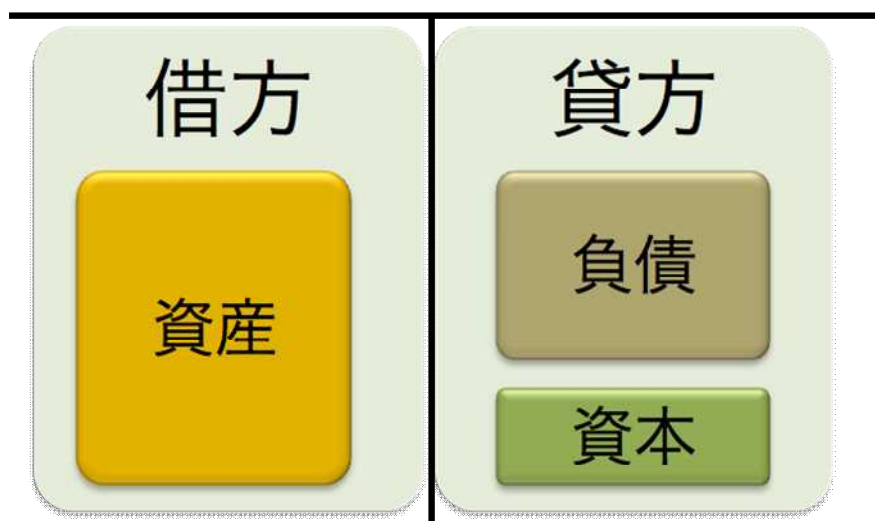
## 2. 貸借対照表と損益計算書

### ■ 貸借対照表

貸借対照表は資産と負債と資本から構成されています。

資産 = 負債 + 資本 という関係で貸借対照表は構成されています

### 貸借対照表



貸借対照表とは会社の財産の状況を表すと説明しましたが、上記の図のような形をしています。借方、貸方は左側と右側という意味だけです。

次に具体的に勘定科目をいれて見てみましょう。

## 貸借対照表

借方		貸方	
<b>資産</b>		<b>負債</b>	
現金	1,000	買掛金	300
売掛金	500	借入金	12,000
繰越商品	200	合計	12,300
建物	3,000		
土地	10,000		
合計	14,700		
		<b>資本</b>	
		資本金	2,000
		繰越利益剰余金	400
		合計	2,400
合計	14,700	合計	14,700

貸借対照表を改めてみると、負債と資本は会社がどこから資金を調達したのかを表しており、資産はその調達された資金がどのように運用されているかを表していることが分かります。このように貸借対照表は会社の期末時点における資産や負債などの状況を表しています。

又、ここで資本というものは資産 - 負債で求められます。つまり、実質的な自己の資産を意味していますので純資産とも呼ばれます。一般の会社でよく資産が 10 億あるなどといいますが、負債が 9 億あると資本は 1 億しかありません。同じ資産 10 億でも負債が 2 億だと資本は 8 億となります。会社の純粋な財産とは資本ですので資産だけ見ても正味の財産がいくらあるのかは分からないのです。

## ■ 損益計算書

損益計算書は収益と費用、利益から構成されています。

### 損益計算書



損益計算書は会社の儲けを表すといいましたが、もうけ(利益)は収益-費用で求められます。例えば50万円で車を仕入れて70万円で販売したとします。すると収益グループの売上が70万円、費用グループの仕入が50万円となり収益70万円-費用50万円=利益20万円となります。次に具体的な勘定科目を入れて見てみましょう。

## 損益計算書

借方		貸方	
<b>費用</b>		<b>収益</b>	
仕入	10,000	売上	20,000
給料	5,000	受取利息	300
旅費交通費	2,700	合計	23,000
接待交際費	2,300		
消耗品費	2,600		
合計	22,600		
<b>利益</b>			
当期純利益	400		
合計	23,000	合計	23,000

損益計算書とは会社の1年間の活動の経営成績を表しています。

### ■ 損益計算書と貸借対照表の関係

損益計算書と貸借対照表をもう一度見ていただくと、貸借対照表の繰越利益剰余金と損益計算書の当期純利益が一致しているのがわかります。

会社をスタートして1年目は同額となります。

2年目に当期純利益が800円となると貸借対照表の繰越利益剰余金は1,200円となります。

つまり、当期純利益は当期の利益額を表示しており、繰越利益剰余金は今までの利益の累積額を示しています。ここから、損益計算書は当期の経営成績を表しており、貸借対照表は現在の財産状態と今までの利益の累積状況を示していることがわかります。

## 第3章 仕訳をやってみよう

1日目の講義で複式簿記は1つの取引を2つの面から把握して借方と貸方に分けていくということをお話ししましたが、取引を借方と貸方に分ける作業を仕訳といいます。

仕訳は簿記の流れのスタートであり、一番つまづきやすいところです。逆にいうと仕訳を理解することでかなり簿記の理解は深まっていきます。仕訳にはグループ毎にルールがありますので、まずはそのルールから見ていきましょう

### 貸借対照表



### 損益計算書



貸借対照表と損益計算書を見ると借方に資産、費用グループが、貸方に負債、資本収益グループがあります。仕訳のルールの基本はそれぞれの属する方が増えた場合増加した方に記入することです。

例えば、資産が増加したら借方、費用が発生したら借方、負債が増加したら増えたら貸方、資本が増加したら貸方、収益が発生したら貸方と記入するというのがルールです。

逆に、減少した場合には逆の側に記入します。つまり、資産が減少したら貸方、負債が減少したら借方、資本が減少したら貸方に記入するというのがルールです。これを整理すると次のようになります。

## 仕訳のルール

借方	貸方
資産の増加	負債の増加
費用の発生	資本の増加
負債の減少	収益の発生
資本の減少	資産の減少

勘定科目や仕訳のルールについてはあまり細かく理由を考えるよりも簿記のルールとはこうなっているんだと暗記するような形で頭に叩き込むことが大切です。

では、具体的に仕訳をやってみましょう！

1. 商品を 10,000 円で販売し、現金を受領した。

仕訳には必ず 2 つ以上の勘定科目が関わってきますし、上記の表の 2 つの状態が発生します。

まず、この取引で使用する勘定科目は現金と売上です。

次に現金と売上という勘定科目がグループで何に属するのかを考えてみましょう。

現金は資産グループ、売上は収益グループです。

次にこの取引を 2 つの面からとらえましょう。

現金という資産グループの増加と売上という収益グループの発生と捉える事が出来ます。

結果として資産の増加と収益の発生という組み合わせに取引を捉える事ができます。

### 仕訳のルール



仕訳すると、資産の増加は借方、収益の発生は貸方に記入しますので借方に現金 10,000 円、貸方に売上 10,000 円と記入します。

伝票上では

借方		貸方	
現金	10,000	売上	10,000

となります。

2. 土地 50,000 円を購入し、現金で支払った

3. 商品 20 円を仕入れ、現金で支払った

4. 商品 30 円を掛にて仕入れた

5. 商品 20 円を掛けで販売した。

- 6 . 土地 50,000 円を掛けで購入した。
- 7 . 机を 10 円で購入し、現金で支払った。
- 8 . 車 100,000 円を掛けで購入した。
- 9 . 出張に向かうために飛行機のチケット 30,000 円を現金にて購入した。
- 10 . 銀行より 100,000 円借り入れ、現金にて受領した。
- 11 . 銀行から借りていた借入金 50,000 円を現金にて返済した。
- 12 . 現金 30,000 円を普通預金へ入金した。
- 13 . 普通預金より現金 20,000 円を引き出した。
- 14 . k 商店に対する未払金 20,000 円を現金で支払った。
- 15 . 会社を設立するにあたり株主より現金 10,000 円の出資を受けた。
- 16 . s 商店に対する売掛金 20 円を現金にて回収した。
- 17 . 新聞折込 30,000 円分を掛けで実施した。
- 18 . k 商店への買掛金 50,000 円を銀行振り込みにて支払った。
- 19 . 普通預金に利息 5 円が入金された。
- 20 . 取引先と懇談を居酒屋で行い、食事代 20,000 円を現金で支払った。
- 21 . K 商店へ商品 10,000 円を販売し、現金で 6,000 円受領し、残額は掛とした。
- 22 . C 商店より商品 8,000 円を仕入れ、現金で 3,000 円支払い、残額は掛とした。
- 23 . 給与を 200,000 円支払い、源泉所得税 10,000 円を差し引いて 190,000 円現金で支払った。

## 第4章 勘定科目を整理して試算表を作成しましょう

伝票への仕訳が終わったら、次は総勘定元帳という帳簿へ記録します。  
総勘定元帳とは仕訳を勘定科目ごとに集計した帳簿です。

仕訳から総勘定元帳へ勘定科目ごとに集計する作業を転記といいます。  
総勘定元帳へ転記をすることで、勘定科目ごとの動きや残高を分析することが出来ます。

又、総勘定元帳への転記で各勘定科目の残高が分かりますので、この残高をもとに試算表を作成し、決算整理を行って決算書を作成することが出来ます。現在のほとんどの会社ではパソコンソフトで会計処理を行うため、転記作業は自動的に行われるようになっていますが、元帳への転記の仕組みを理解することで誤りを見つけたり、各勘定科目の動きを分析して問題を発見したりして解決していくことが出来ます。

それでは総勘定元帳への転記を実際にやってみましょう。

1. 3月5日 商品 800,000 円を現金で仕入れた。

仕訳は、

借 方		貸 方	
仕入	800,000	現金	800,000

となります。

次に、この仕訳を仕入勘定と現金勘定へ転記します。

転記の方法は借方に仕訳したものは借方へ記入し貸方へ仕訳したものは貸方へ記入し、日付と相手勘定を書きます。

仕 入	現 金
3/5 現金 800,000 円	3/5 仕入 800,000 円

基本はこれだけです。

次に時系列的に見る為に3つの仕訳を転記していきます。

1. 2月3日 A商店へ商品 800,000 円販売し、代金を現金で受領した。

借 方		貸 方	
現金	800,000	売上	800,000

2. 2月5日 B商店より商品 600,000 円を仕入れ、代金を現金で支払った。

借 方		貸 方	
仕入	600,000	現金	600,000

3. 2月7日 K商店へ商品 400,000 円を販売し、代金を現金で受領した。

借 方		貸 方	
現金	400,000	売上	400,000

さあ、ここで2月の元帳の動きを集計してみましょう。

#### 仕 入

2/5	現金	600,000 円	
-----	----	-----------	--

#### 売 上

	2/3	現金	800,000 円
	2/7	現金	400,000 円

#### 現 金

2/3	売上	800,000 円	2/5	仕入	600,000 円
2/7	売上	400,000 円			

まずは、仕入勘定ですが、仕入の合計は 600,000 円です。  
売上勘定は 800,000 円と 400,000 円の合計で 1,200,000 円となっています。  
現金勘定は 2 月 3 日に 800,000 円増加し、5 日に 600,000 円減少し、7 日に 400,000 円増加して  
いますので 2 月末日の残高は  $800,000 \text{ 円} - 600,000 \text{ 円} + 400,000 \text{ 円} = 600,000 \text{ 円}$  となっ  
ています。  
こういった集計作業を勘定を締め切るといいます。

決算では、各勘定科目を締め切り、その締め切った残高を集計した試算表を作成します。  
試算表では借方と貸方の合計額は必ず一致します。  
それは、仕訳をするときも転記をするときも常に借方と貸方は同じ金額で作業しているからで  
す。

では上記の各勘定科目を集計して次に試算表を作成すると次のようになります。

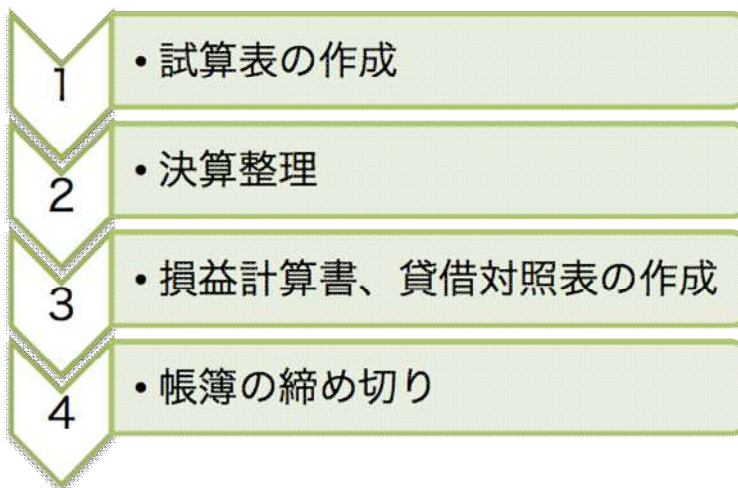
現金	600,000	売上	1,200,000
仕入	600,000		
合計	1,200,000	合計	1,200,000

## 第5章 決算処理

### ■ 決算とは

決算とは、1年間の会社の取引を全てまとめて決算書を作成し、帳簿を全て締め切る手続きです。決算とは、1年間の会社の経営の成果をみるものといえます。

### ～ 決算の流れ～



試算表とは、あくまで試して算出する表という意味ですから、決算整理を行うことで正しい決算書が作成されます。

ということは、試算表って正しくないの？という疑問があるかと思います。

例えば印刷用紙を期中に 10,000 枚 10,000 円を現金にて購入して

【借】 消耗品費 10,000 円 / 【貸】 現金 10,000 円

という仕訳を行っている場合で、期末にまだ未使用分が 4,000 枚あったとします。

その場合未使用分の 4,000 円分は来期以降の費用とすべきものです。

こういったことを修正していき、正しい決算書を作成する手続き(決算整理)が必要だということになります。

決算整理では主に次のような事項について行っていきます。

減価償却、売上原価、費用や収益の繰延など

## ■ 減価償却

それでは、まず 減価償却から見ていきましょう。

資産グループの中で建物、備品、車両運搬具など会社が使用する目的で購入し、1年以上使う資産を固定資産といいます。

まず、例示として車両運搬具を現金 100,000 円で購入した時の仕訳を考えてみましょう

【借】 車両運搬具 100,000 円 / 【貸】 現金 100,000 円 となりますね。

この車両運搬具の 100,000 円の価値は使用していくことにより減少していきます。

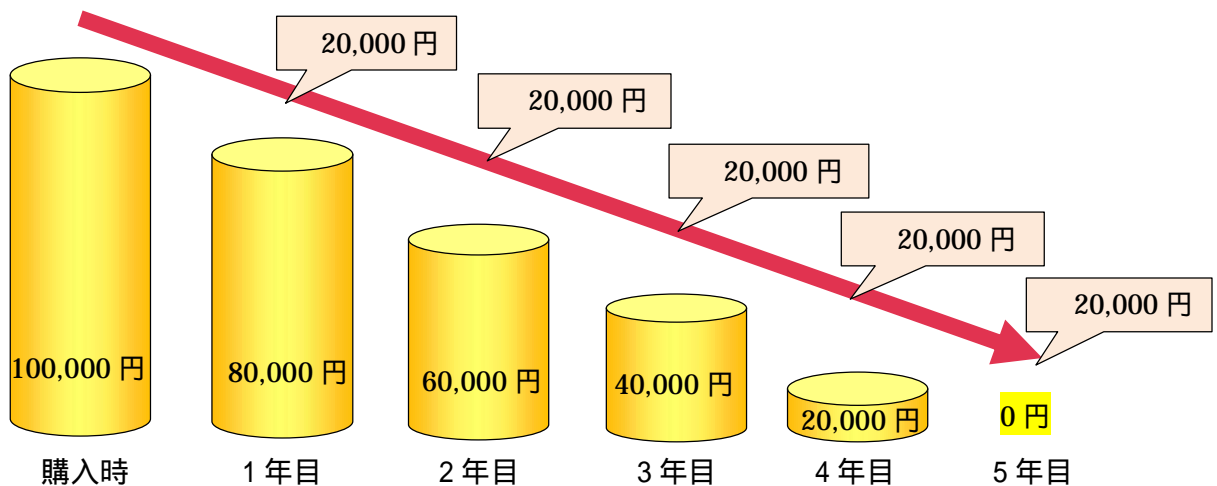
その価値の減少分は当然会社の費用となりますがどのように計算していくのでしょうか？

実は固定資産にはそれぞれの物品ごとに耐用年数というものがあります。

耐用年数とはそれぞれの物品ごとの寿命と考えると分かりやすいと思います。

車両運搬具の耐用年数は 5 年となっています。

ということは 100,000 円の資産価値が 5 年間でなくなるということです。



そうすると車両運搬具は購入時は 100,000 円ですが、1 年後に 80,000 円、2 年後に 60,000 円と減少していき、5 年後には資産の価値がゼロになります。

価値の減少分を表す費用グループの勘定科目を減価償却費といいます。

仕訳は

【借】 減価償却費 20,000 円 / 【貸】 車両運搬具 20,000 円

となります。

減価償却の計算式は 購入時の値段 / 耐用年数となります。又、固定資産を購入した時の値段を取得原価と簿記上はよびます。

次に、会計期間の途中で資産を購入した時の計算式を説明します。

会計期間が4月～3月で1月に車を購入した時はどうなるのでしょうか？決算末まで3ヶ月しか使用していないので3ヶ月分しか価値は減少していません。このように期中に資産を購入した時は月割りで計算していきます。

今回の減価償却額は  $100,000 \text{ 円} / 5 \text{ 年} \times 3 \text{ ヶ月} / 12 \text{ ヶ月} = 5,000 \text{ 円}$  となります。

仕訳は

【借】 減価償却費 5,000 円 / 【貸】 車両運搬具 5,000 円

となります。

最後に残存価格というものを考えてみましょう。

5年後に車両の価値は先ほどの計算を続けていきますとゼロになります。しかし5年後の自動車の価値ってゼロでしょうか？中古車として販売するといくらかの価値がありますよね。建物や備品も同じですが、減価償却が完了した時の資産の価値を残存価格といいます。

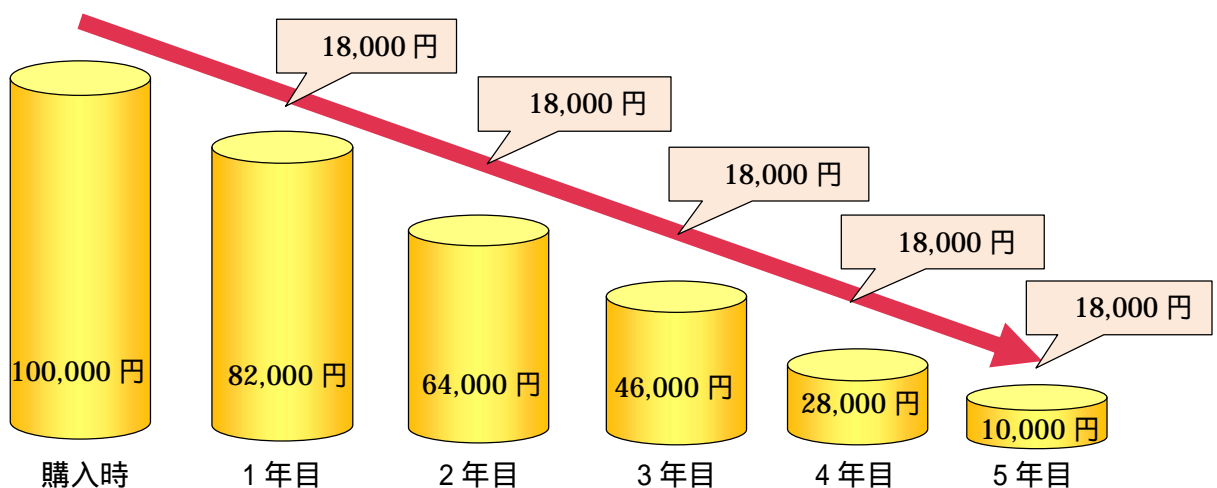
残存価格は客観的に見積もることが難しいので、一律に取得価格の10%と考えます。

つまり、先ほどの例に当てはめると  $100,000 \text{ 円} \times 0.1 = 10,000 \text{ 円}$  が残存価格となります。

5年後の車両運搬具の価値が10,000円になるために、減価償却の計算をおこなうときに取得原価から残存価格を差し引いて行う必要がありますので正しい計算式は、

減価償却費 = (取得原価 - 残存価格) / 耐用年数となります。

$(100,000 \text{ 円} - 10,000 \text{ 円}) / 5 \text{ 年} = 18,000 \text{ 円}$  となります。



車両運搬具の価値は1年目82,000円 2年目64,000円となり、5年後に10,000円となります。

## ■ 売上原価

決算期に売れ残った商品(在庫)はどのように処理するのでしょうか。会計期間が 4 月～3 月のリンゴを販売する会社があるとします。この会社では 1 年間でリンゴを 100 円で 10 個現金で仕入れました。そして 1 年間でリンゴを 200 円で 7 個現金で販売できました。その場合の仕訳はどのようになりますか？

【借】 仕入 1,000 円 / 【貸】 現金 1,000 円

【借】 現金 1,400 円 / 【貸】 売上 1,400 円

ここでこの会社が決算期を向かえた時の利益を考えてみましょう。売上 1,400 円で仕入が 1,000 円だから 400 円の利益となるのでしょうか？実際の費用は販売できたリンゴ 7 個に対応する仕入 700 円だけとなるべきです。つまり利益は 700 円となります。

このように実際に販売した分に対応する仕入部分を売上原価と言います。

又、売れ残った 3 個のリンゴ(在庫)は資産グループとなります。

この勘定科目を繰越商品と言います。従って決算整理で次の仕訳を行います。

【借】 繰越商品 300 円 / 【貸】 仕入 300 円

## 第6章 決算整理

### ■ 消耗品の処理

期中に印刷用紙を 10,000 円分現金にて購入したが、期末時点で未使用分が 3,000 円分あるとします。

期中では

【借】 消耗品費 10,000 円 / 【貸】 現金 10,000 円

となっています。

しかし、当期の正しい費用は使用した分の 7,000 円で未使用分の 3,000 円は来期に繰越す必要があります。未使用分は資産となりますが、この時使用する勘定科目を消耗品といいます。消耗品費という費用科目と似ていますのでご注意ください。

仕訳は

【借】 消耗品 3,000 円 / 【貸】 消耗品費 3,000 円

となります。

### ■ 費用、収益の繰延

当期に費用として支払っているが、実はその一部が来期の費用とすべきものであるということがあります。このような場合は決算整理で来期部分の経費を差し引いて来期に繰り延べる処理を行います。これを費用の繰延といいます。繰延は費用だけでなく、収益においてもおこります。

会計期間を 4 月～3 月とします。1 月に火災保険 1 年分 12,000 円を現金で支払ったとします。

その時の仕訳は

【借】 保険料 12,000 円 / 【貸】 現金 12,000 円

となります。

しかし、当期の費用となるのは 1 月～3 月分の 3,000 円だけで 4 月～12 月分の 9,000 円分の保険料は来期の費用となります。この様に期間に応じて支払う費用のうち、未到来部分を繰り越す為の資産の勘定科目を前払費用といいます。

仕訳は

【借】 前払保険料 9,000 円 / 【貸】 保険料 9,000 円

となります。

## ■ 費用、収益の見越し

まだ、支払っていないので費用に計上していないが実は当期の費用とすべきものがあります。このような場合は決算整理でこれを見越して、当期の費用として計上する仕訳を行います。これを費用の見越しといいます。見越しは費用だけでなく収益においてもおこります。会計期間が4月～3月とします。10月にS銀行より年利10%で36万円を借りたとします。借入期間は1年で1年後の元本返済時に利息も返済するとします。

期中の仕訳では

【借】 現金 360,000 円 / 【貸】 借入金 360,000 円

となります。

決算時点では支払利息は計上されていませんが、6ヶ月分の利息18,000円は発生していますので費用に計上する必要があります。支払利息という費用に対して未払利息という負債グループの勘定科目を相手科目として仕訳します。

【借】 支払利息 18,000 円 / 【貸】 未払利息 18,000 円

- 貸借対照表と損益計算書の作成

まずは試算表から決算整理を行ったあとの試算表(決算整理後残高試算表といいます)を作成します。

決算整理後残高試算表

(借方)		(貸方)	
現金	300	買掛金	250
売掛金	300	借入金	1,000
繰越商品	50	未払利息	10
消耗品	30	資本金	500
建物	500	繰越利益剰余金	240
車両運搬具	100	売上	2,075
土地	820	受取利息	5
仕入	1,000		
給料	400		
接待交際費	300		
消耗品費	200		
減価償却費	70		
支払利息	10		
合計	4,080	合計	4,080

まず、損益計算書を作成します。決算整理後残高試算表より費用と収益に属するものを集めます。そして収益の合計から費用の合計を差し引き、当期純利益を計算します。この場合貸方の収益合計 2,080 円から費用合計 1,980 円を差し引いた 100 円を当期純利益として表示します。これで完成です。

次に、貸借対照表を作成しましょう。決算整理後試算表のうち、資産、負債、資本グループを集めます。

この時、資本グループには当期純利益が増えることになりましたが、表示は繰越利益剰余金という資本グループの科目に含めて表示します。

## 貸借対照表

(借方)		(貸方)	
資 産		負 債	
現金	300	買掛金	250
売掛金	300	借入金	1,000
繰越商品	50	未払利息	10
消耗品	30		
建物	500	<b>資 本</b>	
車輛運搬具	100	資本金	500
土地	820	繰越利益剰余金	340
合計	2,100	合計	2,100

## 損益計算書

(借方)		(貸方)	
費 用		収 益	
仕入	1,000	売上	2,075
給料	400	受取利息	5
接待交際費	300		
消耗品費	200		
減価償却費	70		
支払利息	10		
当期純利益	100		
合計	2,080	合計	2,080

## ■ 帳簿の締め切り

決算が終わると又来期の処理が始まります。帳簿は1年ごとに整理するので決算が終わると今期の帳簿を締め切り、来期へ繰り越す処理が必要となります。

では、事例をもとに帳簿の締め切り方を学びましょう

1. 2月3日 A商店へ商品 800,000 円販売し、代金を現金で受領した。

【借】 現金 800,000 円 / 【貸】 売上 800,000 円

2. 2月5日 B商店より商品 60 万円を仕入れ、代金を現金で支払った。

【借】 仕入 600,000 円 / 【貸】 現金 600,000 円

3. 2月7日 K商店へ商品 400,000 円を販売し、代金を現金で受領した。

【借】 現金 400,000 円 / 【貸】 売上 400,000 円

仕 入	
2/5 現金	600,000 円

現 金	
2/3 売上	800,000 円
2/7 売上	400,000 円
2/5 仕入	600,000 円

売 上	
2/3 現金	800,000 円
2/7 現金	400,000 円

では、上記の各勘定科目の締め切りを行ってみましょう。締め切り日は2月28日とします。勘定の締め切り方は資産、負債、資本と収益、費用で違います。資産、負債、資本は残高を繰り越すのに対し、収益と費用は次期に繰り越すという考え方はありません。当期の売上100,000円を次期に繰り越すことは出来ません。したがって、収益、費用は損益勘定を新たに作成し、損益勘定へ集計した残高を振替ます。損益勘定は収益グループと費用グループを集計したものであり、これが損益計算書のもととなります。収益から費用を差し引いたものが当期の利益となります。最後に利益の金額を資本金に振り替えて完了となります。

【借】 損益 600,000円 / 【貸】 資本金 600,000円

又、資産、負債、資本は次期繰り越しを計算し、勘定を締め切ると共に期首の繰り越しも記入します。最後に繰越試算表を作成して完了となります。

## 仕入

2/5 現金	600,000 円	2/28 損益	600,000 円
合計	600,000 円	合計	600,000 円

## 売上

2/28 損益	1,200,000 円	2/3 現金	800,000 円
		2/7 現金	400,000 円
合計	1,200,000 円	合計	1,200,000 円

## 現金

2/3 売上	800,000 円	2/5 仕入	600,000 円
2/7 売上	400,000 円	2/28 次期繰越	600,000 円
合計	1,200,000 円	合計	1,200,000 円
3/1 前期繰越	600,000 円		

## 資本

2/28 次期繰越	600,000 円	2/28 損益	600,000 円
合計	600,000 円	合計	600,000 円

## 損益

2/28 仕入	600,000 円	2/28 売上	1,200,000 円
2/28 資本金	600,000 円		

## 繰越試算表

2/28 現金	600,000 円	2/28 資本金	600,000 円
合計	600,000 円	合計	600,000 円

## 第7章 まとめ ~ 総合問題をいっしょに解きましょう

次の取引を仕訳し、総勘定元帳を完成させ、試算表を作成しなさい。

なお、会計期間は4月1日より3月31日までとする。

1. 4/1 現金 3,000,000 円を資本金とした会社を設立した。
2. 4/12 営業所を開くために建物 500,000 円を現金で購入した。
3. 6/20 印刷用の用紙 10,000 円を現金で購入した。
4. 7/1 K 銀行より現金 8,000,000 円を借り入れた。
5. 7/1 K 銀行へ利息 1 年分 60,000 円を現金で支払った。
6. 8/15 S 商店より商品 10 個を 6,000,000 円にて現金で仕入れた。
7. 9/10 T 商店へ商品 5 個を 8,000,000 円にて現金で販売した。

出来あがった残高試算表を基に次の決算整理事項を仕訳し、決算整理後残高試算表を作成しなさい。

### 決算整理事項

決算日につき、当期に取得した建物について減価償却を行う。なお、減価償却の方法は定額法(耐用年数 20 年、残存価格は取得原価の 10%)とする。

期中に支払った利息は 1 年分の為、来期分の繰延処理を行う

商品の在庫が 3,000,000 円あった。

印刷用紙が期末時点で未使用分が 7,000 円分あった。

第7章 解答用紙

	日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	4/1				
2	4/12				
3	6/20				
4	7/1				
5	7/1				
6	8/15				
7	9/10				

現金	1
建物	2
繰越商品	3
消耗品	4
前払利息	5
借入金	6
資本金	7

売 上	8
仕 入	9
消耗品費	10
支払利息	11
減価償却費	12

残高試算表

借方残高	元丁	勘定科目	貸方残高
	1	現 金	
	2	建 物	
	6	借入金	
	7	資本金	
	8	売 上	
	9	仕 入	
	10	消耗品費	
	11	支払利息	

[決算整理仕訳]

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
1				
2				
3				
4				

決算整理後残高試算表

借方残高	元丁	勘定科目	貸方残高
	1	現金	
	2	建物	
	3	繰越商品	
	4	消耗品	
	5	前払利息	
	6	借入金	
	7	資本金	
	8	売上	
	9	仕入	
	10	消耗品費	
	11	支払利息	
	12	減価償却費	

## ミニテスト

### 第1章 簿記とはどのようなものですか？

1. 次のグループが貸借対照表、損益計算書のどちらに属するか をつけなさい。

	負債	貸借対照表 ・ 損益計算書
	収益	貸借対照表 ・ 損益計算書
	純資産(資本)	貸借対照表 ・ 損益計算書
	資産	貸借対照表 ・ 損益計算書
	費用	貸借対照表 ・ 損益計算書

2. 「簿記一巡の流れ」について次の 〇 にあてはまる語句を入れて完成させなさい。





### 第3章 仕訳をやってみよう

1. 次の各要素の増減は仕訳するにあたり借方と貸方のどちらに記入されるか、借方または貸方に をつけなさい。

	資産の増加	借方 ・ 貸方
	資産の減少	借方 ・ 貸方
	負債の増加	借方 ・ 貸方
	負債の減少	借方 ・ 貸方
	資本の増加	借方 ・ 貸方
	資本の減少	借方 ・ 貸方
	収益の発生	借方 ・ 貸方
	費用の発生	借方 ・ 貸方

2. 次の取引の仕訳をしなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	未払金	現金	売上
資本金	保険料	売掛金	買掛金
仕入	車両運搬具	支払家賃	預り金
通信費	建物	借入金	受取手数料

1. 現金 ¥10,000,000 を元入れ(出資)して、開業した。
2. A銀行から現金 ¥1,000,000 を借り入れた。
3. 営業用自動車 ¥2,000,000 を購入し、代金は現金で支払った。
4. 店舗として建物 ¥5,000,000 を購入し、代金は後日支払うこととした。
5. 商品 ¥300,000 を仕入れ、代金は現金で支払った。
6. 商品 ¥500,000 を売り上げ、代金は後日受け取ることにした。
7. 商品 ¥200,000 を仕入れ、代金は掛けとした。
8. 商品 ¥400,000 を売り上げ、代金は現金で受け取った。
9. 電話代 ¥10,000 を現金で支払った。
10. 建物の火災保険料 ¥50,000 を現金で支払った。
11. かねて購入していた建物の代金のうち ¥1,000,000 を現金で支払った。
12. 仕入先に対する買掛金 ¥100,000 を現金で支払った。
13. 得意先から売掛金 ¥300,000 を現金で回収した。
14. A銀行より借り入れた金額のうち ¥200,000 を現金で返済した。
15. 手数料 ¥200,000 を現金で受け取った。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				



仕	入	5
給	料	6

残高試算表

借方残高	元丁	勘定科目	貸方残高
	1	現金	
	2	売掛金	
	3	買掛金	
	4	売上	
	5	仕入	
	6	給料	

## 第5章 決算処理

### 減価償却

次の各取引について仕訳しなさい。なお、会計期間は4月1日から3月31日までとする。

決算日につき、当期の期首に取得した建物(取得原価 1,000)について減価償却を行う。なお、減価償却の方法は定額法(耐用年数 30 年、残存価格は取得原価の 10%)とする。

決算日につき、当期の期首に取得した備品(取得原価 800 円)について減価償却を行う。なお、減価償却方法は定額法(耐用年数 8 年、残存価格は取得原価の 10%)とする。

決算日につき、当期の12月1日に取得した備品(取得原価 4,000 円)について減価償却を行う。なお、減価償却は定額法(耐用年数 8 年、残存価格は取得原価の 10%)とする。

	借方科目	金額	貸方科目	金額

## 第6章 決算処理

### 費用、収益の見越し

次の各取引について仕訳しなさい。

決算につき、受取利息 60 円(6 ヶ月分)のうち、次期分(2 ヶ月分)を繰り延べる。

決算につき、支払家賃 1,000 円のうち、次期分 600 円を繰り延べる。

決算につき、受取地代 500 円を見越し計上する。

決算につき、未払利息 300 円を見越し計上する。

	借方科目	金額	貸方科目	金額

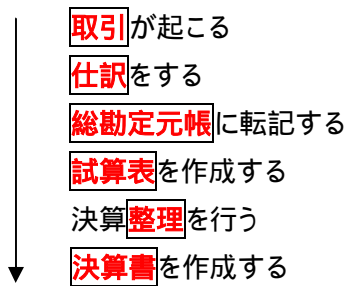
## ミニテスト 解答

### 第1章 簿記とはどのようなものですか？

1. 次のグループが貸借対照表、損益計算書のどちらに属するか をつけなさい。

負債	貸借対照表・損益計算書
収益	貸借対照表・損益計算書
純資産(資本)	貸借対照表・損益計算書
資産	貸借対照表・損益計算書
費用	貸借対照表・損益計算書

2. 「簿記一巡の流れ」について次の にあてはまる語句を入れて完成させなさい。



## 第2章 勘定科目と貸借対照表、損益計算書について

1. 次の各科目が、資産・負債・純資産のいずれに属するか答えなさい。

現金	車両運搬具	未払金	未収金	土地
普通預金	買掛金	借入金	備品	売掛金
繰越商品	貸付金	資本金	建物	預り金

	資産		資産		負債		資産		資産
	資産		負債		負債		資産		資産
	資産		資産		純資産		資産		負債

2. 次の各科目が、収益・費用のいずれに属するか答えなさい。

通信費	旅費交通費	受取利息	仕入	給料
支払家賃	保険料	売上	水道光熱費	接待交際費
受取手数料	広告宣伝費	支払利息	消耗品費	

	費用		費用		収益		費用		費用
	費用		費用		収益		費用		費用
	収益		費用		費用		費用		

3. 次の各科目が、資産・負債・純資産・収益・費用のいずれに属するか答えなさい。

給料	未払金	現金	売上	支払利息
資本金	建物	売掛金	買掛金	備品
貸付金	土地	支払家賃	預り金	未収金
旅費交通費	広告宣伝費	借入金	受取利息	仕入

	費用		負債		資産		収益		費用
	純資産		資産		資産		負債		資産
	資産		資産		費用		負債		資産
	費用		費用		負債		収益		費用

### 第3章 仕訳をやってみよう

1. 次の各要素の増減は仕訳するにあたり借方と貸方のどちらに記入されるか、借方または貸方に つけなさい。

	資産の増加	借方 ・ 貸方
	資産の減少	借方 ・ 貸方
	負債の増加	借方 ・ 貸方
	負債の減少	借方 ・ 貸方
	資本の増加	借方 ・ 貸方
	資本の減少	借方 ・ 貸方
	収益の発生	借方 ・ 貸方
	費用の発生	借方 ・ 貸方

2. 次の取引の仕訳をしなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	未払金	現金	売上
資本金	保険料	売掛金	買掛金
仕入	車両運搬具	支払家賃	預り金
通信費	建物	借入金	受取手数料

- 現金 ¥10,000,000 を元入れ(出資)して、開業した。
- A銀行から現金 ¥1,000,000 を借り入れた。
- 営業用自動車 ¥2,000,000 を購入し、代金は現金で支払った。
- 店舗として建物 ¥5,000,000 を購入し、代金は後日支払うこととした。
- 商品 ¥300,000 を仕入れ、代金は現金で支払った。
- 商品 ¥500,000 を売り上げ、代金は後日受け取ることにした。
- 商品 ¥200,000 を仕入れ、代金は掛けとした。
- 商品 ¥400,000 を売り上げ、代金は現金で受け取った。
- 電話代 ¥10,000 を現金で支払った。
- 建物の火災保険料 ¥50,000 を現金で支払った。
- かねて購入していた建物の代金のうち ¥1,000,000 を現金で支払った。
- 仕入先に対する買掛金 ¥100,000 を現金で支払った。
- 得意先から売掛金 ¥300,000 を現金で回収した。
- A銀行より借り入れた金額のうち ¥200,000 を現金で返済した。
- 手数料 ¥200,000 を現金で受け取った。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金	10,000,000	資本金	10,000,000
2	現金	1,000,000	借入金	1,000,000
3	車両運搬具	2,000,000	現金	2,000,000
4	建物	5,000,000	未払金	5,000,000
5	仕入	300,000	現金	300,000
6	売掛金	500,000	売上	500,000
7	仕入	200,000	買掛金	200,000
8	現金	400,000	売上	400,000
9	通信費	10,000	現金	10,000
10	保険料	50,000	現金	50,000
11	未払金	1,000,000	現金	1,000,000
12	買掛金	100,000	現金	100,000
13	現金	300,000	売掛金	300,000
14	借入金	200,000	現金	200,000
15	現金	200,000	受取手数料	200,000

第4章 勘定科目を整理して試算表を作成しましょう

次の取引を仕訳し、総勘定元帳へ転記し、試算表を完成させなさい。

- 5月3日 B 商店へ商品 10,000 円を現金にて販売した。
- 5月5日 L 商店より商品 5,000 円を掛けにて仕入れた。
- 5月7日 K 商店へ商品 3,000 円を掛け販売した。
- 5月10日 給与 1,000 円を現金にて支払った。
- 5月12日 D 商店より商品 500 円を掛け仕入した。
- 5月15日 L 商店への買掛金を現金で支払った。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
5月3日	現金	10,000	売上	10,000
5月5日	仕入	5,000	買掛金	5,000
5月7日	売掛金	3,000	売上	3,000
5月10日	給料	1,000	現金	1,000
5月12日	仕入	500	買掛金	500
5月15日	買掛金	5,000	現金	5,000

現金		1
5/3 売上	10,000	5/10 給料
		1,000
		5/15 買掛金
		5,000

売掛金		2
5/7 売上	3,000	

買掛金		3
5/15 現金	5,000	5/5 仕入
		5,000
		5/12 仕入
		500

売上		4
		5/3 現金
		10,000
		5/7 売掛金
		3,000

仕 入		5
5/5 買掛金	5,000	
5/12 買掛金	500	
給 料		6
5/10 現金	1,000	

残高試算表

借方残高	元丁	勘定科目	貸方残高
4,000	1	現金	
3,000	2	売掛金	
	3	買掛金	500
	4	売上	13,000
5,500	5	仕入	
1,000	6	給料	
13,500			13,500

## 第5章 決算処理

### 減価償却

次の各取引について仕訳しなさい。なお、会計期間は4月1日から3月31日までとする。

決算日につき、当期の期首に取得した建物(取得原価 1,000)について減価償却を行う。なお、減価償却の方法は定額法(耐用年数 30 年、残存価格は取得原価の 10%)とする。

決算日につき、当期の期首に取得した備品(取得原価 800 円)について減価償却を行う。なお、減価償却方法は定額法(耐用年数 8 年、残存価格は取得原価の 10%)とする。

決算日につき、当期の12月1日に取得した備品(取得原価 4,000 円)について減価償却を行う。なお、減価償却は定額法(耐用年数 8 年、残存価格は取得原価の 10%)とする。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
	減価償却費	30	建物	30
	減価償却費	90	備品	90
	減価償却費	150	備品	150

## 第6章 決算処理

### 費用、収益の見越し

次の各取引について仕訳しなさい。

決算につき、受取利息 60 円(6 ヶ月分)のうち、次期分(2 ヶ月分)を繰り延べる。

決算につき、支払家賃 1,000 円のうち、次期分 600 円を繰り延べる。

決算につき、受取地代 500 円を見越し計上する。

決算につき、未払利息 300 円を見越し計上する。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
	受取利息	20	前受利息	20
	前払家賃	600	支払家賃	600
	未収金	500	受取地代	500
	支払利息	300	未払利息	300

第7章 解答

	日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	4/1	現金	3,000,000	資本金	3,000,000
2	4/12	建物	500,000	現金	500,000
3	6/20	消耗品費	10,000	現金	10,000
4	7/1	現金	8,000,000	借入金	8,000,000
5	7/1	支払利息	60,000	現金	60,000
6	8/15	仕入	6,000,000	現金	6,000,000
7	9/10	現金	8,000,000	売上	8,000,000

現金		1	
4/1 資本金	3,000,000	4/12 建物	500,000
7/1 借入金	8,000,000	6/20 消耗品費	10,000
9/10 売上	8,000,000	7/1 支払利息	60,000
		8/15 仕入	6,000,000

建物		2	
4/12 現金	500,000	3/31 減価償却費	22,500

繰越商品		3	
3/31 仕入	3,000,000		

消耗品		4	
3/31 消耗品費	7,000		

前払利息		5	
3/31 支払利息	15,000		

借入金		6	
		7/1 現金	8,000,000

資本金		7	
		4/1 現金	3,000,000

売 上		8
	9/10 現金	8,000,000
仕 入		9
8/15 現金	6,000,000	3/31 繰越商品 3,000,000
消耗品費		10
6/20 現金	10,000	3/31 消耗品 7,000
支払利息		11
7/1 現金	60,000	3/31 前払利息 15,000
減価償却費		12
3/31 建物	22,500	

### 残高試算表

借方残高	元丁	勘定科目	貸方残高
12,430,000	1	現金	
500,000	2	建物	
	6	借入金	8,000,000
	7	資本金	3,000,000
	8	売上	8,000,000
6,000,000	9	仕入	
10,000	10	消耗品費	
60,000	11	支払利息	
19,000,000			19,000,000

[決算整理仕訳]

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	減価償却費	22,500	建物	22,500
2	前払利息	15,000	支払利息	15,000
3	繰越商品	3,000,000	仕入	3,000,000
4	消耗品	7,000	消耗品費	7,000

決算整理後残高試算表

借方残高	元丁	勘定科目	貸方残高
12,430,000	1	現金	
477,500	2	建物	
3,000,000	3	繰越商品	
7,000	4	消耗品	
15,000	5	前払利息	
	6	借入金	8,000,000
	7	資本金	3,000,000
	8	売上	8,000,000
3,000,000	9	仕入	
3,000	10	消耗品費	
45,000	11	支払利息	
22,500	12	減価償却費	
19,000,000			19,000,000